

支えてくれた友達

小学校五年

わたしは、五月の初めに、自転車で転んで足をけがしました。そのせいで、階段を上ることができず、学校ではエレベーターを使わせてもらうことになりました。そのことで、自分だけ一人遅れてしまい、みんなにめいわくをかけてしまうかもしれない、と考えると、とても不安な気持ちになりました。

学校に行くと、けがをしたわたしを見た友達が、「大丈夫？痛くない？」

と言ってくれました。他の友達は、

「荷物持つよ。何か手伝うよ。」

と言ってくれました。歩くのがおそい私に合わせて、いっしょにゆっくり歩いてくれた友達。エレベーターが着くのを待ってくれていた友達。転びそうになったときに、助けてくれた友達。わたしのそばには、いつも友達がいてくれました。そんな友達が、やさしく声をかけてくれたり、支えてくれたりして、とてもうれしかったです。あんなに不安だった気持ちはすぐになくなりました。

けがをしたことは、つらかったし、痛かったけれど、みんなのおかげで大切なことに気づくことができました。それは、人は一人ではできないことも、誰かが手を差し伸べてくれることで、できることが増えていく、ということです。

その反対に、自分がこまっている時に手伝ってくれる人がだれもいなかったら、すごく不安だろうなと思います。つらくて悲しい気持ちになってしまふと思います。そんな思いはみんなにしてほしくありません。

これからは、けがをしている人はもちろん、困っている人や、悲しい思いをしている人を見つけたら、私がしてもらったように、寄り添ったり支えたりしたいと思います。そして、助け合うことで、安心して、元気が出たり、勇気が出たりすること、人を、たくさんの人に知ってもらえるように、行動に移し、この考えを広めていきたいと思っています。